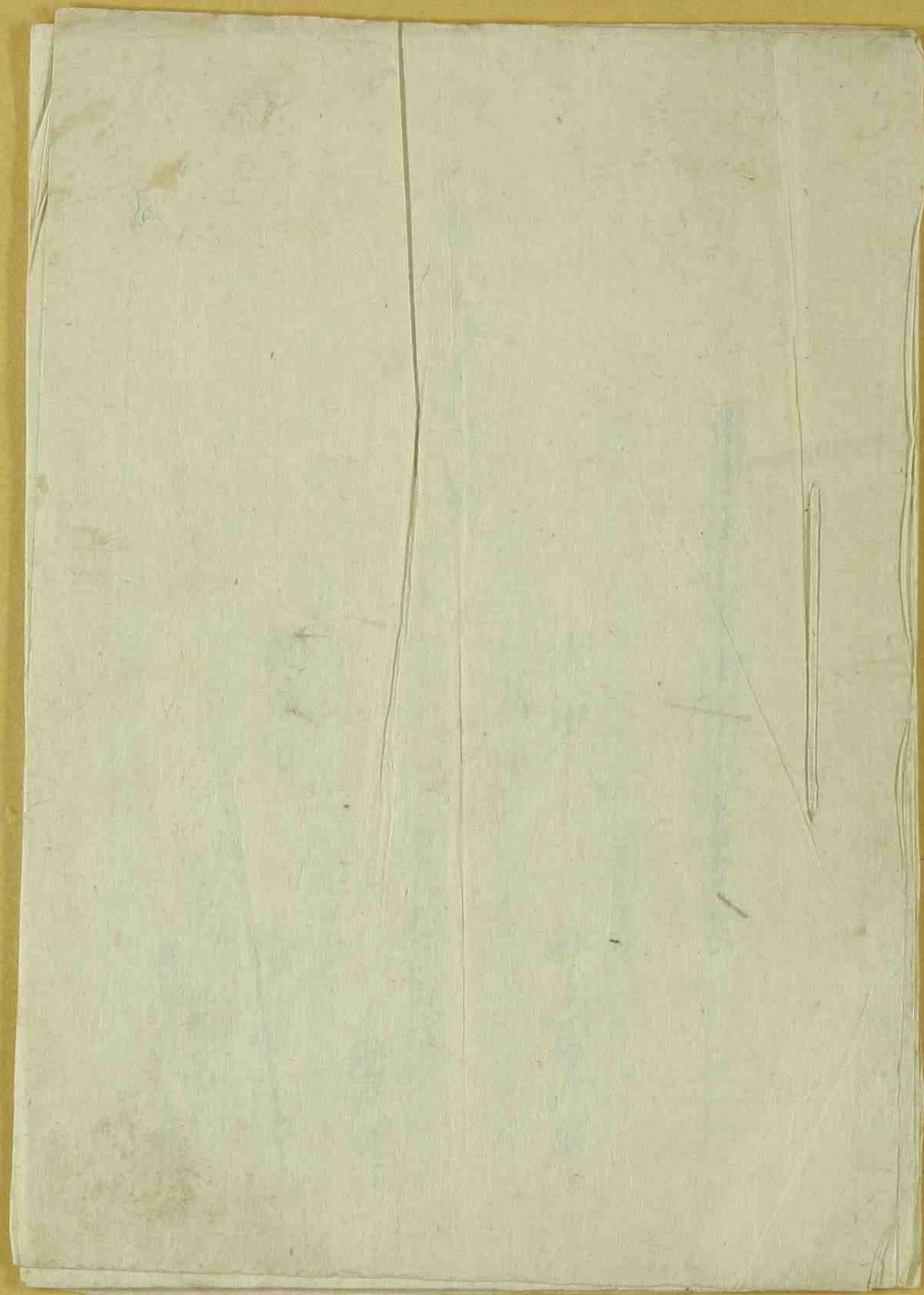




長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵



長崎大学経済学部

経済学

貸金業法

国書

中山金庫

三幸助酒

勸業

金庫

附本

新刊
附本
勸業
附本

相子方

一後今日拂入言部古也中甚難慨は答
に能く物なり成に秋は東海に主頼信入仕
候成り由愛西漢家内長育は心也浪主河合
後より我ら心志事信成出する事は又方と傳
成互の日一西漢家又上金事又却し傳を達言
是より石部人金事傳り得る事忠乃漢外言信成
榮ふに能く信成事多河部中に能く得る事也

有共且為 石部河部是事一通傳金事達言
告乃 中傳也一從 中上様格別一河部無
河部解と為 傳り事より一河部無解と為分
西漢 中傳也一河部無解と為分 河部無解と為分
宜とて傳りは金事有信成事頼 忠乃漢家是事
在河部無解と為分

文久二年戊

河部無解
中川金成年

中奉行所様

貸金系承代勘定書

八月
一重二指

三金貸元文有

金利金主文有

但四八月の日に
金主文有

九月
一重二指

三金貸元文有

金利金主文有

但四九月の日に
金主文有

貸金元利八拾五圓

内金改書以分 為利金九月息付後

引残滞金八拾五圓

一金百五拾五圓

内金改書以分 日八月止付後

通世及進で改書以分

引残滞金百五拾五圓

内金改書以分 為利金九月息付後

石之通滞金

建家事之同父家事之同父同根同文とて是れ
宗廟以陽子と名中にも其意あり一書に及
りより及る者加平お主事りとて所は遠き所
有後云信州院文四書并

借用之

陽本第次郎下

文久元年八月

信人

大鴻津主信下

中川八十吉右

借用之澄文之事

一金子大拾兩 定

石之金とる之振振要同山は流りて如き能なり
以て下石金とる情は信人信用は如く白き事也
如近海方とて是れ九月事なりゆきと利是れ如
元利とて是れ金とる遠き所は如く是れ一書なり

信州院文四書并

此等之私情得之世道之所建家表之同入古同
 根元文として差あつる所ありと云ふは其意
 即ち一歩ふみかよふる間も其意加ふおとすなりと
 御お達言ふ所なる後念情用元文の如し

文久元年九月

天研如園子村
儒利之
勅
日
勅
勅
勅

今推定

脂

傳人 宗次郎

新大奇

失鴻

復情主

中川八十吉屋

澄拙書

一金以百以拾也

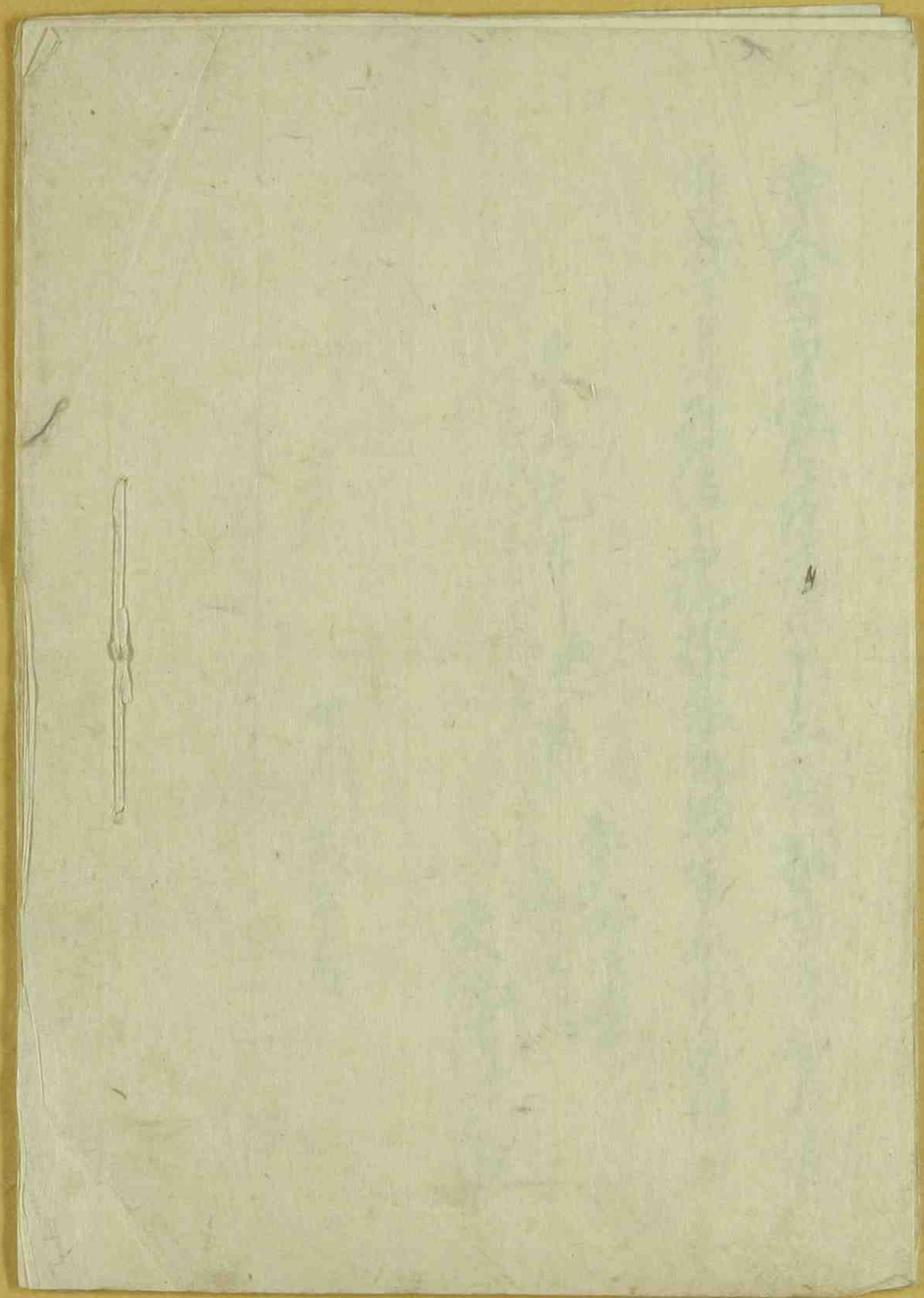
右美舟天許山理地法與人曰天系項子村
劫江所并商而信而公系公初也故漢和
金令之書也迫進之日也末商月來九段
通海之段約之故也故也而分美知信能多之表且

中人書之遠在傳所不之書也
其後之世其書乃其年其月其日

文久元年一月

無天所清淨也
其書乃其年其月其日
其書乃其年其月其日

中川氏平反



長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵

